

本地域の地形配置は大きく東に茅ヶ丘の火山裾野、中央に塩川沖積地、西方に葦崎台地に区分される。これらは更に、穂坂Ⅰ面、穂坂Ⅱ面、穂坂Ⅲ面、新府面、穴山面、支流の段丘面、塩川沖積面らに区分される。これらは多く、扇状地・河岸段丘であり、砂礫層の上にロームを載せているが、その下部は、葦崎火砕流、黒富士火砕流が広く分布している。

土壌は7土壌統とされ、葦崎台地の粘質な畑土壌、塩川沖積地の透水性の大きな水田土壌、茅ヶ丘山麓の強粘質土壌が特色であり、又気候は、寒暖の差が大きい、降水量の少ない特色を有している。

農家人口・農家戸数共に年々減少しており、現在、4,508人、969戸である。農家人口の減少には、15才以下の年令層及び16～59才の女子の減少が大きく影響している。就業者は増加が見られるがその就業構造をみると男子の農業專業の減少、兼業化の傾向が著しいのが注目される。それと対応する様に專業農家は減少し、兼業農家の増大、特に第2種兼業農家の伸びが著しい。

本地域では耕地面積の増減はほとんどなかった。しかし耕地の利用形態には時代によっていくつかの変化が見られた。とは言ってもそれは主に作物の種類の違いによって、畑の優越は常に一貫していた。乏水性の地質・地形の反映であろうが、更に地形面と土地利用形態を調べると、この地形の制約以上に本地域では、農業用水の配置による影響が大きかったことがわかる。

農家は一般に飯米の自給を基礎に置き、現金収入は水稻以外の畑作物に依存した。それは伝統的に養蚕であり、又現在でもそうであるが、ここ数年はそれにぶどうも加え、より高い収益を求めている。

第2種兼業率、第1種兼業率、專業率を第1の指標として兼業化の強い集落、兼業化のやや強い集落、農業本業集落に農家集落を分類した。更に農業本業集落は水田率、桑畑率、果樹園率をとって4つに細分した。それらの分布をみると兼業化の強い集落が中央の塩川沖積地に、農業本業集落が東西の台地と火山山麓に分布している。経営耕地規模別には、各集落類型間になんかの差が認められたが、労働力についての差はほとんどなく、基幹的労働的に多少の差を認めたのみであった。

岩槻市の地理学的考察

川島美保

要約

岩槻市は埼玉県東南部に位置し、人口60,000人(S46.4.1)面積49.76Km²である。東に元荒川が縦走して春日部市に、西は綾瀬川を境として大宮市・浦和市・川口市に接している。市街地は台地上にあり、この台地は大宮台地の一部で岩槻台地といわれている。市の地形はこの岩槻台地と悲恩寺台地、それに綾瀬川・元荒川の沖積地からなる。交通は東部鉄道野田線と国道16号線が東西に、国道122号線が南北に走り、東北縦貫自動車道路の基点となる予定である。

岩槻市はもともと城下町として発展した。15世紀に太田道灌によって岩槻城が築城されてから江戸時代に譜代大名の居城として栄え、また五街道の1つの日光御成街道の宿場町として、將軍の日光参代の時の宿駅ともなって栄えていた。しかし明治以後は町の発展は遅れ、特に東北線の開通に反対してからは城下町当時のままであった。戦後、東京から30kmという近さによって住宅がたくさん建てられ、都市化が進んでいる。ここ2、3年は人口も5～6,000人ずつ増加し、埼玉県内の他の市町村及び東京都からの転入が多く、従業者は約24%が市外へ勤め、そのうちの約40%は東京都へ勤めている。転入人口に伴い住宅も45年度までに4,862戸建築されている。このような都市化に従って農家数も耕地面積も減少している。農業は米、麦類が主な生産物である。商業は大宮市の商圏に入っているため、あまり発達していない。工業では輸送機・電機・紙工品・食料品などの製造業が年間30億円以上の生産額を示しているが、岩槻市の特産物として人形製造業がある。

人形産業は全国では埼玉県・東京都・静岡県・愛知県がその主産地で、埼玉では岩槻・鴻巣・所沢などで人形を作っている。岩槻は完成品40%、頭で80%の全国の市場占有率を占めている。人形産業は中小企業で家族従業者が多く、分業化された手工業生産である。岩槻の人形は江戸時代におこり、桐の集散地であったこと、水質のよかったこと、江戸に近かったこと、交通の便がよくなったことなどから発生し、江戸の下請地として武士の内職、農家の副業として作られていた。その後3つの発展的な時期を経る。1つは関東大震災で東京の間屋街が壊滅して岩槻独自で全国の販路網を開拓したこと、1つは昭和初期に舞踊人形が作られて採業の季節的かたよりがなくなったこと、1つは太平洋戦争で東京の職人が岩槻に疎開してそのまま居住した者が多くいたこと、この3時期を経て岩槻は全国有数の産地となった。現在、従業者は2,000人、生産額は50～60億円である。頭・手足・衣裳・小道具と分業で作られた部品は市内の間屋で組立てられている。頭だけは全国へも販売されている。みな手工業であるが昭和40年頃からプラスチックの頭、手足が進出し、機械化、量産化されるようになったがまだ手工業によるものが多い。